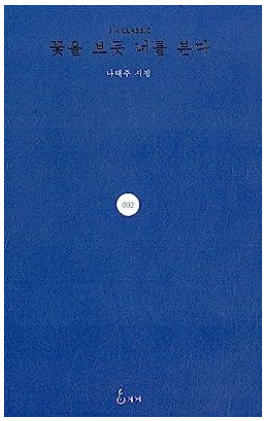
ナ・テジュ 『花を見るように君を見る』黒河星子訳



深い紺色の硬い表紙に細い金文字でタイトル「花を見るように君を見る」とある。
作者はナ・テジュ。かんき出版から 2020 年 12 月第 1 刷発行
ナ・テジュ氏は 1945 年生まれの作家、詩人。今ではエッセイ、童話、詩画集など 150 冊以上の本を出版。
1964 年から小中学校の教師生活 43 年。
1971 年「新春文芸」に詩が入選し、詩人になった。
1973 年初の詩集「竹やぶの下で」を出版。
氏曰く、16 歳からラブレターの代わりに詩を書き始め、その後 60 年間一日も休まず詩を書いたという。
70 歳を超えてからインターネットのブログやコミュニティに掲載されたものに読者から返事が届くようになった。それを集めて出したのがこの詩集。
今では 60 万部超えの大ベストセラーとなり、イ・ジョンソク他 BTS、BLACKPINK など多くの著名人の愛読書だという。
氏は 2020 年から 2 年の任期で韓国詩人協会会長。

私は性別も年齢も知らないままこの詩集を手にし、読んでみた。韓国ドラマを見ないし、もちろん、韓国の有名人も誰一人知らない。詩を読むにはそれでもいいのだ。

詩集には美しい草花や女子の横顔、山の絵などが挟まれている。
詩は確かに儚げで優しくそっと寄りそう。柔らかい感じ。

「この秋に」

いまでもきみを
愛して悲しい

「幸せ」
夕ご飯に
帰る家があるということ

つらいとき
心で思い浮かべる人がいるということ

さみしいとき
ひとり口ずさむ歌があるということ

「美しい人」
美しい人
目のやり場がない
眺めることもできず
だからといって 眺めないこともできず
ただ目が
まぶしい そんな人

「草花・1」
じっくり見てこそ
美しい

ずっと見てこそ
愛らしい

きみもそうだ

「草花・3」
くよくよせずに生きてごらん
花を咲かせてごらん
いいものだから

どの詩も短く、分かりやすい。
プロフィールを知った後には、長い教師生活を思わせる教え諭す感じがなきにしもあらずだが。
何がそこまで愛読者が増えたのか私には分からない。
でも、何度も読むと過ぎ去った懐かしい時と向き合っているような気がしてくる。不思議。